

言語文化 研究

33巻1号
2021年7月
July 2021 / vol.33 no.1

2) Pilgrimage as a Method of Literary Studies” Building a Foundation for Comparative Research in Post-Colonial Literature (International Institute of Language and Culture Studies, Ritsumeikan University)

- Colonizing Genres on the Imperial “*Gaichi*” (Outer Lands):
Taxonomic Anxieties, Mysterious Media Ecologies, and
Popular Empire Writing HAAG, Andre Robert
- The Transiting of Irish Literature of the 1930s and
Modern Taiwanese Literature Wu, Pei-chen
- Experience of Colonial Land and the Politics of
Translation, with a Focus on Jeong Ji-yong's Poetry.
KIM, Donghee
- Considering Multilingual Shanghai (Fragments from
My Open Diary, July and August, 2018)
NISHI, Masahiko
- A Second-Generation Coloniser and Korea:
An Exploration of Dialogue and Resonance
in Kazue Morisaki's Poetry SUGIURA, Kiyofumi
- War Narrative and Taiwanese LGBT Literature
MISU, Yusuke
- A Study of *Airport Time* by the Taiwanese Japanese-
Language Writer Wen You-Rou; Inner “*Gaichi*” and
Interlocking Representations of the Self and the Other
XIE, Huizhen

Neuro-psycholinguistic Research on Eye-tracking in Reading Language Attrition in Chinese-Japanese-English Trilinguals” Research Project A2 Neuropsycholinguistic Approaches to Bilingualism (International Institute of Language and Culture Studies, Ritsumeikan University)

- Introduction TAURA, Hideyuki
- An fNIRS Study on Language Attrition and Acquisiton
in a Chinese Learner of Japanese Residing in Japan
from a Neuro-psycholinguistic Perspective
SHI, Linghui / TAURA, Hideyuki

- 159 An Eye-Tracking Case Study on the Reading
Mechanisms under Articulation-Suppression
Conditions in a Chinese-Japanese-English Trilingual
GUO, Xiangting / TAURA, Hideyuki

“Applied Bilingualism Studies” Exploratory Research Project B1 Research on Bilingualism (International Institute of Language and Culture Studies, Ritsumeikan University)

- 181 Introduction TAURA, Hideyuki
- 185 Case Studies on Chinese-Japanese Bilingual Siblings
Residing in Japan from a Bilinguality Perspective
DONG, Jianqiu / TAURA, Hideyuki
- 209 A Study on Dialectal Differences in Refusal Strategies
between Cantonese and Mandarin Chinese Speakers
from the Perspectives of Intimacy and Seniority
YUEN, Chan Hang
- 231 Motivational Factors in Vietnamese Learners of Japanese
— A JSL Study Based on Maslow's Hierarchy of Desire
HIROTA, Emiko

Articles

- 261 Sugawara no Michizane - The Road to Exile
CAPASSO, Carolina
- 279 Reflections on Two Anthologies of Afro-Cuban Poetry
AMBO, Hironao

33
巻1号

2021年7月

立命館大学国際言語文化研究所

国際言語文化研究所プロジェクト 比較植民地文学研究の基盤整備 (2) 特集「外地巡礼という方法」

- 1 Colonizing Genres on the Imperial “*Gaichi*”
(Outer Lands): Taxonomic Anxieties, Mysterious
Media Ecologies, and Popular Empire Writing
ヘイグ アンドレ
- 27 一九三〇年代におけるアイルランド文学の越境と台湾新文学
呉 佩珍
- 39 植民地体験と翻訳の政治学
——「朝鮮詩集」に収録された鄭芝溶の作品を中心に——
金 東億
- 53 「多言語都市・上海」を思う・続
(『日録』2018年7月～8月より) 西 成彦
- 79 植民者二世と朝鮮
——森崎和江の詩におけるダイアログ、そして共振について——
杉浦清文
- 97 戦争と「同志」叙事
——大島渚『戦場のメリークリスマス』から
明鏡屏「再見、東京」へ—— 三須 祐介
- 111 在日台湾人作家温又柔『空港時光』研究：
「内なる外地」と自他表象の運動 謝 惠貞

国際言語文化研究所重点プロジェクトA2 バイリンガル fNIRS 言語脳科学研究会報告 特集「中日英トライリンガル眼球運動・ 言語喪失神経心理言語学研究」

- 129 「バイリンガルの言語脳イメージング研究」
第2期(2016～2020年度)研究概要とその成果
田浦秀幸
- 135 中国人日本語学習者の滞日期間の長さによる言語喪失・
習得 fNIRS 研究：神経心理言語学的アプローチ
石 希理・田浦秀幸
- 159 中日英トライリンガルのリーディングメカニズム解明研究
——構音抑制下における眼球運動に注目したケーススタディー——
郭 湘婷・田浦秀幸

国際言語文化研究所萌芽プロジェクトB1 バイリンガリズム研究会 特集「バイリンガリズム理論の応用研究」

- 181 「バイリンガリズム研究会」成果報告
田浦秀幸
- 185 在日中国人家庭児の継承語と日本語能力に関する
ケーススタディー：バイリンガリティの観点から
董 劍秋・田浦秀幸
- 209 断りストラテジーの広東語とフロンティアの方言差研究
——親疎関係と上下関係による配慮の視点から——
阮 振恒
- 231 ベトナム人日本語学校生のモチベーションについて
——マズローの欲求の階層を用いて——
廣田恵美子

個別論文

- 261 *Seiyō kibun*: alcune considerazioni sulla genesi
e struttura dell'opera.
『西洋紀聞』：その成立と構造に関する一考察
CAPASSO, Carolina
- 279 アフロキューバ主義における黒人詩の流行について
——エミリオ・バジャガスとラモン・ギラオの黒人詩アンソロジーを
めぐって一考察—— 安保寛尚



立命館
言語文化研究

33巻1号

目次

国際言語文化研究所プロジェクト
比較植民地文学研究の基盤整備 (2)
特集「外地巡礼という方法」

- Colonizing Genres on the Imperial "Gaichi" (Outer Lands):
Taxonomic Anxieties, Mysterious Media Ecologies, and Popular Empire Writing
.....ヘイグ アンドレ (1)
- 一九三〇年代におけるアイルランド文学の越境と台湾新文学.....呉 佩珍 (27)
- 植民地体験と翻訳の政治学
——『朝鮮詩集』に収録された鄭芝溶の作品を中心に——.....金 東僊 (39)
- 「多言語都市・上海」を思う・続 (『日録』2018年7月～8月より).....西 成彦 (53)
- 植民者二世と朝鮮
——森崎和江の詩におけるダイアログ、そして共振について——.....杉浦清文 (79)
- 戦争と「同志」叙事
——大島渚『戦場のメリークリスマス』から明毓屏『再見、東京』へ——
.....三須 祐介 (97)
- 在日台湾人作家温又柔『空港時光』研究：
「内なる外地」と自他表象の連動.....謝 惠貞 (111)

国際言語文化研究所重点プロジェクトA2
バイリンガル fNIRS 言語脳科学研究会報告
特集「中日英トライリンガル眼球運動・言語喪失神経心理言語学研究」

- 「バイリンガルの言語脳イメージング研究」
第2期(2016～2020年度)研究概要とその成果.....田浦秀幸 (129)
- 中国人日本語学習者の滞日期間の長さによる言語喪失・習得 fNIRS 研究：
神経心理言語学的アプローチ.....石 荅瑋・田浦秀幸 (135)
- 中日英トライリンガルのリーディングメカニズム解明研究
——構音抑制下における眼球運動に注目したケーススタディー——郭 湘婷・田浦秀幸 (159)

国際言語文化研究所萌芽プロジェクト B1
バイリンガリズム研究会
特集「バイリンガリズム理論の応用研究」

- 「バイリンガリズム研究会」成果報告…………… 田浦秀幸 (181)
- 在日中国人家庭児の継承語と日本語能力に関するケーススタディー：
バイリンガリティーの観点から…………… 董 剣秋・田浦秀幸 (185)
- 断りストラテジーの広東語とブトンファの方言差研究
——親疎関係と上下関係による配慮の視点から——…………… 阮 振恒 (209)
- ベトナム人日本語学校生のモチベーションについて
——マズローの欲求の階層を用いて——…………… 廣田恵美子 (231)

個別論文

- Seiyō kibun*: alcune considerazioni sulla genesi e struttura dell'opera.
『西洋紀聞』：その成立と構造に関する一考察…………… CAPASSO, Carolina (261)
- アフロキューバ主義における黒人詩の流行について
——エミリオ・バジャガスとラモン・ギラオの黒人詩アンソロジーをめぐる一考察——
…………… 安保寛尚 (279)

国際言語文化研究所プロジェクト
比較植民地文学研究の基盤整備 (2)
特集「外地巡礼という方法」

Colonizing Genres on the Imperial “*Gaichi*” (Outer Lands): Taxonomic Anxieties, Mysterious Media Ecologies, and Popular Empire Writing

Andre HAAG

Genre Classifications on Imperial Ground

Attempts to name the genres of writing that historically rendered the Japanese colonial empire (植民地帝国日本) readable as prose fiction can invite a host of thorny complications related to power, space, and identity. Much like colonial taxonomies deployed to assert mastery over subject territories and populations via classification, genre as system could be analogously understood as imposing order and identity on the colonial empire's unruly cultural production and media ecologies, while facing comparable dilemmas of inclusion and exclusion. Systems of classification and categorization may, as David Spurr writes, “be seen as emblematic of colonial discourse as a whole, which everywhere imposes a system of nomination, of identity, and difference.”¹⁾

Similarly, the classification of literary and cultural genres serves to sort and group texts for the purposes of marketing or to produce an object of study, in the process maintaining hierarchies that elevate some works to a higher, “integral” status and disregard others deemed peripheral. While formal categorization is an indispensable scholarly tool, the simple endeavor of classifying literary and cultural genres encounters unexpectedly treacherous territory when texts written in Japanese move between the empire's center and the outer lands, where various boundary lines are blurred. Such taxonomic work can be particularly fraught when working between cultures and languages—i.e., English and Japanese, as I do in the following discussion. Nonetheless, the aim of this article is to center questions of genre in the Japanese colonial empire's fiction, in order to recover cultural phenomena and media ecologies that have been overlooked or obscured due the unreliability of existing generic lenses: namely, the literary works of the early colonial empire, the emerging sites of mass literature (often designated, tellingly, “genre fiction”), and texts that straddle geographical and cultural boundaries.

Whether in Japanese or English, the basic nomenclature available to identify the object of study proves confusing and contentious when it comes to linking *empire* and *literature*. For example, while its utility has been proposed by some, the designation *imperial literature* (帝国文

編集者

『立命館言語文化研究』編集委員会

委員長 田浦秀幸
委員 有田節子
河原典史
COULSON, David
住田翔子
西岡亜紀
事務局 木下円子

立命館言語文化研究 33巻1号(通巻144号)

2021年7月20日 印刷

2021年7月30日 発行

発行者 田浦秀幸

発行所 立命館大学国際言語文化研究所

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL (075) 465-8164

E-mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp

印刷所 株田中プリント

『立命館言語文化研究』投稿規程

(目的)

1. 本規程は立命館大学国際言語文化研究所（以下、「研究所」とする。）紀要『立命館言語文化研究』（英文書名:Ritsumeikan Studies in Language and Culture）（以下、「紀要」とする。）の投稿について定めるものである。執筆については、別途『立命館言語文化研究』執筆要領を参照すること。

(投稿資格)

2. 紀要に投稿できる論文等の執筆者は、本学の教職員・研究員のほか、研究所で受け入れている客員協力研究員および編集委員会が寄稿を依頼した者または投稿を認めた者とする。

(投稿申込)

3. 執筆者は投稿にあたり、必要事項を記載した上で以下の書類をすべて提出する。研究所が定める申込み期間以外に提出された場合は原則として受付けない。
 - (1) 研究所所定の『立命館言語文化研究』執筆申込書
 - (2) 要約・キーワード
 - (3) 原稿

(原稿の種類)

4. 原稿の種類は以下のとおりとする。ただし、いずれも研究所の研究活動に関連した内容のものとする。
 - (1) 論文 (Article)
 - (2) 研究ノート (Short Notes)
 - (3) 翻訳 (Translation)
 - (4) 資料紹介 (Elucidation of New Material)
 - (5) その他編集委員会が依頼または承認したもの

5. 原稿の種類について、以下のとおり定義を定める。

- (1) 論文：実証的あるいは論考的研究に基づく原著論文。
- (2) 研究ノート：論文に準じる学術的価値のある研究、あるいは予察的・中間的な研究報告。
- (3) 翻訳：日本語以外の言語で発表された論文等について、日本語に翻訳を行った学術的価値の認められるもの。
- (4) 資料紹介：学術的価値の認められる資料の紹介。
- (5) その他編集委員会が認めたもの。

(著作権)

6. 原稿は、すべて未発表のものとする。また、原稿の執筆に際して、執筆者は、剽窃はもとより、日本語または外国語による他の著作物から当該の言語のまま引用あるいは他の言語に翻訳して引用する場合であっても、第三者の著作権が侵害されることのないよう、最大限留意しなければならない。

(原稿分量)

7. 原稿の本文の分量は、和文の場合は20,000字程度、英文の場合は7,000語程度、その他の言語の場合は和文に相当する分量とし、本文とはいずれも表題・図表・注・引用文献を含め

たときの上限とする。

(執筆)

8. 原稿の執筆に関する詳細は、別途「執筆要領」において定める。

(使用言語)

9. 使用言語は、任意の言語とする。執筆者の母語以外の言語を使用する場合は、ネイティブチェックを行い投稿すること。

(要約・キーワード)

10. 原稿には本文のほかに、本文が和文の場合には、英文150語以内の要約を添付し、その他の言語の場合には和文430字以内の要約を添付し、和文および英文の二言語によるキーワード(5点以内)を添付して提出すること。キーワードは要約の後に記載すること。

(原稿提出)

11. 原稿は、PDF形式とWord形式の電子データを電子メールで提出するものとする。原稿提出締切日を過ぎた場合は原則として受付けない。

(査読)

12. 投稿された論文については、編集委員会の方針に基づいた査読を行い掲載の可否について判断を行う。

(公開)

13. 紀要の目次および掲載論文等は、原則として研究所、立命館大学機関リポジトリR-Cube、国立国会図書館および国立情報学研究所のホームページ上で公開する。ただし、執筆者の許諾がない場合または編集委員会が特別の事情を認めた場合は、公開しないことがある。

(その他)

14. その他必要な事項については、編集委員会の議を経て、研究所運営委員会で決定する。

(改廃)

15. 本規程の改廃は、編集委員会の議を経て研究所運営委員会において行う。

附則1. 本規程は2020年11月9日から施行し、本誌第33巻1号から適用する。

2. 本規定の制定に伴い、『立命館言語文化研究』執筆・投稿規定(2004年12月14日)は廃止する。
3. 研究所等、本規程で言及したホームページ上で公開する論文等については、本規程を準用する。